GRADUATE SCHOOL OF URBAN SOCIAL AND CULTURAL STUDIES

横浜市立大学大学院

都市社会文化研究科

GUIDE BOOK 2022

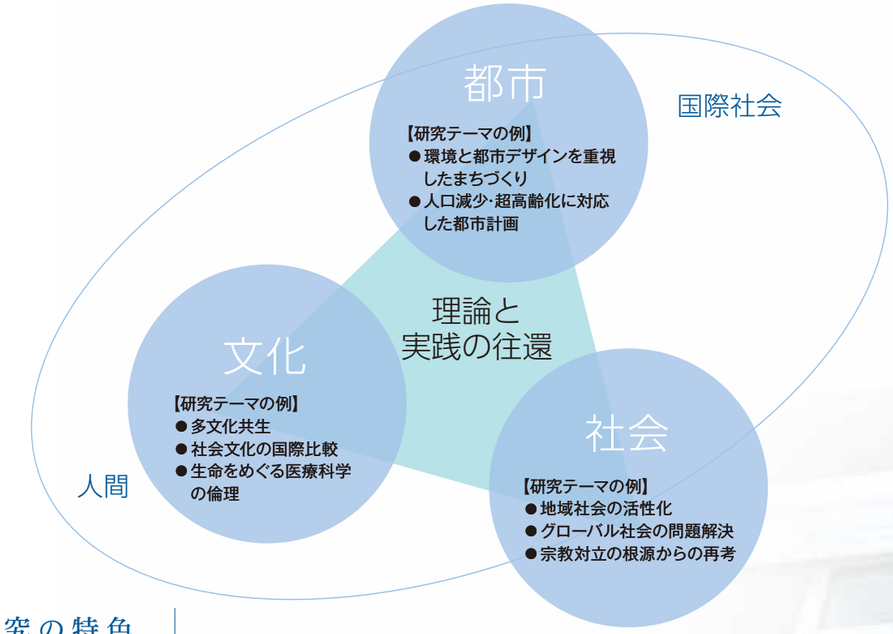
YCU
横浜市立大学

現代都市と社会から発想する。

本研究科の研究とは

主要な研究領域である「都市」「社会」「文化」それぞれの研究ディシプリンを身に付けられる研究科です。また、それらの学際的融合領域に、人間から国際社会まで対象のスケールを問わず、「理論と実践を往還」しながら取り組むことができます。

研究科の理念　人間や国際社会に対する深い理解に基づく、現代都市社会の問題解決と新たな理念の創出



研究の特色

様々な社会問題・研究課題に対して、学際的なアプローチによって取り組んでいます。

研究テーマの例

- 環境と都市デザインを重視したまちづくり
- 人口減少・超高齢化に対応した都市計画
- 地域社会の活性化
- グローバル社会の問題解決
- 宗教対立の根源からの再考
- 多文化共生
- 社会文化の国際比較
- 生命をめぐる医療科学の倫理

都市社会文化研究科のあゆみ

昭和24年　新制大学として横浜市立大学設置
平成 5 年　大学院国際文化研究科（博士前期課程）設置
平成 8 年　大学院国際文化研究科（博士後期課程）設置
平成17年　大学法人化（公立大学法人横浜市立大学発足）
大学院国際総合科学研究科 設置（国際文化研究科、経営学研究科、経済学研究科、理学研究科を統合）
平成21年　大学院国際総合科学研究科を再編し、都市社会文化研究科を設置（生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を同時に設置）

都市社会文化研究科のめざすもの

都市社会文化研究科は、国際都市横浜の公立大学に相応しい大学院として2009(平成21)年4月に開設されました。前身の国際文化研究科、国際総合科学研究科国際文化研究専攻の時期から通算すると、すでに四半世紀の実績を持ち、多くの大学院生を社会に送り出してきました。

本研究科は、急速に変化する現代社会の諸問題について、都市・地域・国際社会の課題を中心に、人間と文化への深い理解を踏まえて実践的に取り組む人材の育成をめざしています。

今、世界は国連のSDGs（持続可能な開発目標）を共通目標として取り組んでいます。そのなかで誰もが安心して暮らせることが基本的に求められ、グローバルな視点と共に一人一人に目を向けるローカルな視点、そして、実現には危機感や知識の共有だけでなく、共に実践する力が求められています。

そのためには、現場から学ぶことや、領域横断的・学際的なアプローチが重要になります。こうしたニーズに応えるべく、都市社会文化研究科は、人文・社会科学の様々な分野の学問を基盤とし、現代社会の具体的・現実的な課題に取り組むための、総合的・実践的教育システムを備えています。

学問が机上に留まらず、社会の中で活きていくために、地域社会と連携した実践的な教育プログラムの開発や、社会人の積極的な受け入れも行っております。本研究科の理念を共有し、広い視野と柔軟な思考力をもった、チャレンジを大いに期待しています。

都市社会文化研究科長　齊藤　広子

教育の特色

■ 多分野融合型のカリキュラム編成
■ 地域社会との連携
■ 社会人の積極的受け入れ

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士(学術)
博士後期課程	3名	博士(学術)

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程

次のような科目群によって構成され、2年間で合計30単位取得して修了します。

総合研究科目(4単位)	学外講師を招聘し、実践的関心の喚起を図る科目
特講科目(14単位)	専門性を深める講義科目
演習科目(8単位)	修士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目
修士論文(4単位)	修士論文の提出により単位を取得

＊なお、社会人学生を対象に、演習・修士論文の代わりに特別研究・研究報告書によって修了する方式もあります。

博士後期課程

次の科目群から3年間で合計20単位取得し、博士論文審査を経て修了します。

多分野交流演習(2単位)	総合的・学際的視点の獲得を図る演習科目
攻究科目(6単位)	各分野の専門性を深めるための講義科目
演習科目(12単位)	博士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目

履修のイメージ

目的や研究上の関心に応じた授業科目の組み合わせが可能です。下記は博士前期課程での履修例です(科目名一覧は6ページ)。

グローバルキャリアをめざして学ぶ場合

- 総合研究科目(4単位)
  総合研究科目:2、3
- 特講科目(14単位)
  社会文化論特講:1(アジア文化論)、5(文化人類学)／海外地域論特講:2(アジア地域論)、4(イスラーム地域論)／国際関係論特講:1(グローバル政治論)、2(グローバル経済論)、4(途上国開発論)

社会福祉を学び、研究報告書で修了する場合

- 総合研究科目(4単位)
  総合研究科目:1、4
- 特講科目(18単位)
  人間科学論特講:1(現代倫理学)／社会文化論特講:6(日本社会史)／まちづくり論特講:3(市民まちづくり論)／都市・環境政策論特講:2(地域ガバナンス論)、3(都市政策論)、5(地方自治論)／地域社会論特講:5(福祉社会論)、6(社会理論)／社会経済論特講:1(NPO論)

まちづくりを学ぶ場合

- 総合研究科目(4単位)
  総合研究科目:1、2
- 特講科目(14単位)
  社会文化論特講:1(アジア文化論)、6(日本社会史)／まちづくり論特講:1(都市計画論)、3(市民まちづくり論)、5(防災まちづくり論)、6(不動産マネジメント論)／都市・環境政策論特講:2(地域ガバナンス論)

※ この他、演習科目(8単位)および修士論文(4単位)(修士論文で修了する場合)、特別研究科目(8単位)(社会人が研究報告書で修了する場合)の履修が必要です。

修士論文テーマ例　2020年度修了者

- 人材育成講座の成果測定に関する研究～横浜市「協働の『地域づくり大学校』事業」を事例に
- トンガ王国における家電製品の耐用性と使用実態に関する研究
- 中国内陸部少数民族地域における扶貧開発
  ―四川省楽山市峨辺県黒竹溝鎮底底古村を事例として―
- 虐待を行う親の心性および心理的支援に関する考察
  ～目黒区女児虐待死事件を事例として～
- 日中両国におけるインターネット企業のCSRに関する研究
- 「自己責任」の存在と相互的コミュニケーション
  ―発生と受容の分析から―
- 子育て環境における地域力の重要性について
  ―小田原市内区域・地区の分析を通して―
- 計画的戸建住宅地における管理組織の住宅地マネジメントの現状と課題
  ―米国から学ぶ日本の対応策―
- 中国・南アフリカFTAの可能性

積極的に行われるフィールドワーク

都市社会文化研究科では、各教員の専門分野に即して、現場で学ぶ機会を大切にしています。
また、学際的で社会人や留学生も多いことから、多様な立場での学生間の議論も活発に行われています。

YCU Minatomirai Satellite Campus

みなとみらいサテライトキャンパス

2020 年 4 月に横浜ランドマークタワー7階産学連携イノベーション拠点に開設された「横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス」でも授業を行うことで、八景キャンパスとは異なる環境での学びを実現しています。

活発な学際的議論

学外向けのアドバンストエクステンション講座（公開講座）などの特別講義も行っています。第一線で活躍するゲスト講師と担当教員との対談形式で行うことで、現代社会が抱える様々な課題について、実践と理論の両輪で理解を深めることができます。

オンラインを活用した授業でも、学生間の活発な議論を促しています。

持続可能な地域社会プログラム（平日夜間 + 土曜日開講プログラム）

ポストコロナの時代に求められるあらたな人材育成として、幅広い基礎学力に支えられているからこその実践を大切に、社会で、そして地域で実践できる人材の育成を目指したプログラムを2021年4月よりスタートしました。

プログラムの特徴

- 人文学, 社会科学, 法学, 社会工学, 人間科学など様々な分野を学際的に学ぶ
- 現代社会の問題を知り、解決・予防する方策を学び、実践する力を身に付ける
- 原則、平日は夜間の遠隔授業、土曜日等は午前・午後の対面授業でプログラム修了

目指す地域社会

- 有限な資源を大切に、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会
- 市民、行政、民間企業、NPO、専門家等がそれぞれの責任を果たし、連携により築き上げる地域社会
- 文化、芸術、歴史等、地域特性を活かした、グローバル社会に対応した地域社会
- 理論に基づいた知見を基に実践し、暮らしの質の向上を目指す地域社会

実践的な研究会の開催

超高齢社会横断的研究会（社会学、建築学、医学、不動産学等、多様な視点から学際的に超高齢社会を考える）をはじめ、PFI等の新たな公民連携を考える研究会、ポストコロナ・人口減少時代の自治体政策研究会など、研究科の教員・学生が参加できる学際的研究会の開催を予定しています。

授業科目

※前期・後期課程とも、指導教員からの研究指導を受けます（演習・特別研究（前期）、研究演習（後期））。
指導を担当可能な教員は教員紹介を参照してください。
※この情報は、2021年度のものです。開講状況は変更になる場合があります。

博士前期課程

総合研究科目

2021年度テーマ例

- SDGs の基礎と実践
- 都市デザインと創造都市
- ジェンダーと周辺化
- エスニシティと子供の居場所
- すまいとまちを考える

特講基礎科目

人間科学論特講
現代倫理学　教育心理学
臨床心理学　現代哲学

言語文化論特講
コミュニケーション論　アメリカ文化論
ヨーロッパ文化論
日本文化史　応用言語論　日本文化論

社会文化論特講
アジア文化論　多文化共生論
エスニシティ文化論　欧米社会論
文化人類学　日本社会史

まちづくり論特講
都市計画論

都市・環境政策論特講
SDGsと都市環境　地方自治論

特講展開科目

まちづくり論特講
都市解析論　市民まちづくり論
都市デザイン論　防災まちづくり論
不動産マネジメント論　都市空間形成論

都市・環境政策論特講
地域ガバナンス論
都市政策論　環境論
公共政策論

地域社会論特講
地域精神保健論　ライフコース論
現代教育論　メディア社会論
福祉社会論　社会理論

社会経済論特講
NPO論　共生社会の地理学
都市ビジネス論　産業立地論
観光政策論

海外地域論特講
文化交流史　アジア地域論
アジア社会史　イスラーム地域論
欧米社会史

国際関係論特講
グローバル政治論　グローバル経済論
グローバル協力論　途上国開発論
グローバル平和論　国際法

博士後期課程

多分野交流演習

- 人間科学論攻究（1～8）
- 都市科学論攻究（1～6）
- 地域社会文化論攻究（1～9）
- 国際社会論攻究（1～7）
- 都市社会論攻究（1～8）
- 研 究 演 習

SDGsのコンセプトに対応する授業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

		1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
中西 正彦	まちづくり論特講1（都市計画論）											●						
後藤 寛	まちづくり論特講2（都市解析論）			●	●				●	●	●	●	●					
三輪 律江	まちづくり論特講3（市民まちづくり論）			●	●	●						●						●
鈴木 伸治	まちづくり論特講4（都市デザイン論）											●						
石川 永子	まちづくり論特講5（防災まちづくり論）			●	●							●		●				●
斎藤 広子	まちづくり論特講6（不動産マネジメント論）											●	●					
青 正澄	都市・環境政策論特講1（SDGsと都市環境）	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
宇野 二朗	都市・環境政策論特講5（地方自治論）																	●
大島 誠	都市・環境政策論特講3（都市政策論）												●					
浮田 徹嗣	地域社会論特講1（地域精神保健論）	●		●														
陳 礼美	地域社会論特講5（福祉社会論）	●		●		●					●	●						
角田 隆一	地域社会論特講4（メディア社会論）				●						●		●				●	
渡會 知子	地域社会論特講6（社会理論）	●			●	●					●	●						
有馬 貴之	社会経済論特講5（観光政策論）			●					●	●	●	●	●		●	●		●
影山 摩子弥	総合研究項目4（SDGsの基礎と実践） 社会経済論特講1（NPO論）																	●
乙坂 智子	海外地域論特講1（文化交流史）													●				
小野寺 淳	海外地域論特講2（アジア地域論）	●	●							●	●	●						
柿崎 一郎	海外地域論特講3（アジア社会史）				●													
山﨑 和美	海外地域論特講4（イスラーム地域論）				●	●					●						●	
山根 徹也	海外地域論特講5（欧米社会史）	●									●						●	
上村 雄彦	国際関係論特講1（グローバル政治論）	●	●					●	●		●			●			●	●
吉田 栄一	社会経済論特講2（共生社会の地理学） 国際関係論特講4（途上国開発論）	●	●						●		●							●
瀬田 真	国際関係論特講6（国際法）	●									●				●		●	●
有馬 斉	人間科学論特講1（現代倫理学）																●	
山田 剛史	人間科学論特講2（教育心理学）				●													
平井 美佳	人間科学論特講3（臨床心理学）	●		●	●	●											●	
三上 真司	人間科学論特講4（現代哲学）																●	
佐藤 響子	言語文化論特講1（コミュニケーション論）				●	●												
庄司 達也	言語文化論特講5（日本文化論）				●	●					●						●	
土屋 慶子	言語文化論特講4（応用言語論）				●	●												
中谷 崇	言語文化論特講2（アメリカ文化論）	●			●	●					●						●	
速水 淑子	言語文化論特講6（ヨーロッパ文化論）	●				●					●						●	
松本 郁代	言語文化論特講3（日本文化史）					●					●	●					●	
滝田 祥子	社会文化論特講2（多文化共生論）				●	●					●						●	
坪田 美欧子	社会文化論特講3（エスニシティ文化論）	●		●	●	●			●		●						●	
板垣 明美	社会文化論特講5（文化人類学）	●	●	●		●			●		●		●		●	●		
本宮 一男	社会文化論特講6（日本社会史）								●								●	

修了後の進路

2012年度～2020年度修了者

就職

株式会社大手広告通信社
積和不動産株式会社
認定NPO法人日本ハビタット協会
関西エアポート株式会社
株式会社リクルートキャリア
テルモ株式会社
日本テトラパック株式会社
株式会社シーアイエス
株式会社日本取引所グループ
マンパワーグループ株式会社
株式会社日立製作所
株式会社毎日新聞社
神奈川県庁
横浜市役所
学校法人片柳学園
株式会社ワークスアプリケーションズ
株式会社良品計画
株式会社タカハ都市科学研究所
逗子市役所
三井住友建設株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
国立大学法人東京外国語大学
横浜市中央児童相談所
学校法人中内学園流通科学大学
京急サービス株式会社
株式会社小宮山土木
アビームコンサルティング株式会社
株式会社ザイマックスアルファ
東洋化学株式会社　など

進学

横浜市立大学大学院
名古屋大学大学院
上智大学大学院
立教大学大学院
Goldsmiths,University of London など

活躍する修了生

多様性が尊重され、持続可能な社会の実現に向けて将来活躍する準備ができる環境

新村 祐斗

博士前期課程　2016年度修了
現在：在シンガポール日本国大使館　専門調査員
(Researcher / Advisor in Political Affairs)

研究テーマ：東アジアの安全保障

国際政治を研究する上村ゼミに所属していました。ゼミではグローバルガバナンスや、世界での富の偏在をいかに解消していくかなど地球規模課題について皆で研究していました。私個人の研究テーマは東アジアの安全保障政策、具体的には日本と朝鮮戦争の関係、近年のパワーバランスの変化に伴う世界秩序の変化について研究していました。また、米国は深く東アジアの安全保障に関わっていますので、歴史的経緯やその時々の政策について、米国のナショナルアーカイブで分析することも多かったです。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えて下さい。

博士前期課程を修了後、2年間の民間企業での勤務と海外大学院留学を経て、現在は外務省専門調査員（政務担当）として、在シンガポール日本国大使館で働いています。仕事内容は、シンクタンクや有識者等との意見交換及び連携して情報収集をすること、そして、日本の外交政策の発信のために、セミナーや講演会の企画等を行っています。私の所属していた上村ゼミでは、フランス出身のギミール先生や当時、米国フルブライト招聘准教授として教鞭を取られていたフィルナー先生を交えてゼミが行われていました。仕事柄英語を使うことが非常に多いのですが、海外出身の先生方と喧々諤々議論し、多様な意見を学んだ経験は今でも仕事に役立っていると思いますし、YCUで学ぶことの大きな魅力だと思います。また、当時は、負荷のかかる作業でしたが、修論を英語で執筆した経験も今の仕事にかなり生かされていると思います。YCUにはWriting centerがあり、サポート体制も整ってます。

明確な目的を持って研究に取り組むことが、新たな価値の創出、将来の可能性の示唆に繋がるのではないか

長坂 泰之

博士後期課程　2020年度修了(学術博士)
現在：流通科学大学商学部　准教授
（内閣府地域活性化伝道師、経済産業省中小企業診断士）

研究テーマ：東日本大震災の津波被災市街地における商業集積の復興プロセスに関する研究

経済産業省所管の独立行政法人中小企業基盤整備機構在職時に東日本大震災が発生しました。直後から津波被災地の商業集積の復興支援業務に携わることとなります。被災当初、商業集積の復興の議論に先んじてインフラ整備の議論がされます。東日本大震災のような甚大な災害の復興にはハードとソフトの両面から復興を捉える必要があります。そう考えたときに、横浜市立大学大学院都市社会研究科の理念である「領域横断的・学際的なアプローチ」の考え方が復旧・復興の現場でも必要であり、かつ、未曾有の災害の商業集積復興に関して研究を行うことに大きな価値があると考え、本研究科の博士前期課程に入学・修了、さらには博士後期課程に進みました。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えて下さい。

長年、国の政策の実行機関で商業を含む産業集積の形成、再生のコンサルティング業務に携わってきました。現場の肌感覚として、東日本大震災以前から、ハードだけで考える、あるいはソフトだけで考えると言ったいわゆる「縦割り」の限界を感じていました。そのような中で東日本大震災が起きました。「東日本大震災の復興はそれまでのやり方は通用しない」と思った時に、前述のとおり、大学院での学びや研究が震災復興に役に立つのではないかと思ったのです。その時に、社会人も積極的に受け入れる本研究科の存在を知りました。ちょうど50歳の時でした。現在は博士（学術）の学位を取得し、転職して大学で流通政策等を教えながら、商業集積の形成、再生のコンサルティング業務を継続しています。振り返ると都市社会文化研究科での学びは、領域横断的・学際的な視野を広げ、そして深めることとなり、それが結果として実務や研究の現場で役立つことに繋がっていると思っています。

教員紹介

より詳細な情報は、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科WEBサイトをご覧ください。
https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/staff/index.html

まちづくり論特講

中西　正彦
NAKANISHI Masahiko

【研究分野】
都市計画、住宅政策

都市計画の制度・計画論の観点から、現代の都市課題である構造再編や住宅地再生等の研究および実践活動を行っている。学生たちには、実際の街に触れ、理論と実際の両面からの解決策導出を指導している。

【担当科目】
[博士前期課程]都市計画論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究1、研究演習

後藤　寛
GOTO Yutaka

【研究分野】
地理情報システム(GIS)、都市計画・
都市解析

都市における面的な空間構造の分析・比較研究、さらには3次元GISのシステム構築と、それによるマイクロエリアマーケティング手法の開発など、さまざまな研究成果と研究方法を伝える。

【担当科目】
[博士前期課程]都市解析論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究5、研究演習

三輪　律江
MIWA Norie

【研究分野】
建築・都市計画、参加型まちづくり、
こどものための都市環境、環境心理学

各地で都市が縮小していく中、世代を超えた居住を実現するまちづくりを探求。
フィールドワーク、セミナー活動など、
行動力を発揮した研究活動を展開している。

【担当科目】
[博士前期課程]市民まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究1、研究演習

鈴木　伸治
SUZUKI Nobuharu

【研究分野】
都市デザイン、歴史的環境保全、創造都市

都市空間の魅力を引き出す景観、歴史を生かしたまちづくりなど、都市デザインのあり方について研究に取り組む。近年は創造都市関連の研究、アジア都市における歴史的環境保全の研究へも幅を広げている。

【担当科目】
[博士前期課程]都市デザイン論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究3、研究演習

石川　永子
ISHIKAWA Eiko

【研究分野】
防災まちづくり、被災者の生活再建と復興、
行政等の災害対応

災害発生時の避難環境に関する研究を中心に、子どもや障害のある人たちを含めたインクルーシブな地域防災のあり方を実践を通して探る。また、被災後の仮住まいや住宅復興についても研究を行っている。

【担当科目】
[博士前期課程]防災まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究2

齊藤　広子
SAITO Hiroko

【研究分野】
不動産学、住環境マネジメント学
マンション管理学、すまいとまちのマネジメント

少子高齢化などにより、大きな転換が求められる現在の都市の政策や計画のなかで、住宅地・住宅・マンションなど、住まい・まちが抱える課題を抽出し、総合的、学際的、実践的に解決方法を導き出す研究や実践を行う。

【担当科目】
[博士前期課程]不動産マネジメント論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻究6、研究演習

都市･環境政策論特講

青　正澄
AO Masazumi

【研究分野】
環境政策、エネルギー政策、環境教育

環境配慮型都市の研究を始め、大気・海洋汚染、資源循環、エネルギー問題など、国際社会が抱える地球環境問題の予防と対策に資する政策研究を行っている。特にPM2.5やオゾン、海洋ごみ、分散型エネルギーの問題に焦点を当てている。

【担当科目】
[博士前期課程]SDGsと都市環境、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究4

宇野　二朗
UNO Jiro

【研究分野】
地方自治論、行政学

社会や基盤となるインフラストラクチャーをどのように統治するのかという視点から、地方自治の制度や組織を研究している。
特に地方公営企業の制度と大都市内下位区分における自治に注目している。

【担当科目】
[博士前期課程]地方自治論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究6、研究演習

都市･環境政策論特講

大島　誠
OSHIMA Makoto

【研究分野】
地方財政論、公共経営論、都市政策論

都市問題の解決主体である地方公共団体の活動について、財政的な側面から研究している。
最近は、公共サービスの民営化、PFI(Private Finance Initiative)方式、水道事業、地域環境政策、省エネルギーなどである。

【担当科目】
[博士前期課程]都市政策論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究8、研究演習

地域社会論特講

浮田　徹嗣
UKITA Tetsuji

【研究分野】
臨床心理学、精神分析学、精神保健学

不登校や引きこもり、子どもの家庭内暴力に対する親の相談に際して、ロールプレイングなどの手法を用いるなど、さまざまな考察をするとともに、精神分析的心理療法の再構築を目指す

【担当科目】
[博士前期課程]地域精神保健論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究4

陳　礼美
Li-Mei Chen

【研究分野】
社会福祉学(社会老年学)

超高齢社会を迎えた日本では社会保障、社会福祉サービスの諸課題について福祉現場の実践から政策・制度レベルまで現実的且つ持続可能な解決が求められている。
社会福祉の理念と価値を大切にしながら、これからの介護・医療・福祉制度の在り方、高齢者とその家族の生活の質とウェルビイングの研究について取り組んでいる。

【担当科目】
[博士前期課程]福祉社会論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究3

角田　隆一
TSUNODA Ryuichi

【研究分野】
社会学(文化社会学、現代社会論、メディア社会論)

メディア文化やポピュラー文化の具体的様態から近現代社会の構造や性格を探究。
これまではとりわけ写真を中心とした映像文化を事例にしながらその考察を深めてきた。

【担当科目】
[博士前期課程]メディア社会論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究6

渡會　知子
WATARAI Tomoko

【研究分野】
社会学(社会理論)

専門は理論社会学、とりわけ社会システム理論。
ドイツの「ポスト移民社会」を主な調査対象としながら、包摂と排除、空間、体験、意味などについて理論的に考察している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕社会理論、演習
〔博士後期課程〕地域社会文化論攻究9

教員紹介

社会経済論特講

有馬 貴之
ARIMA Takayuki

【研究分野】
観光地理学、観光政策論、観光教育

観光施設などのミクロな空間スケールから
観光立国といったマクロな空間スケールまで、
様々な空間スケールに合わせた状況把握手法、
および政策やプランニングに関わる
マネジメント手法について研究している。

【担当科目】
[博士前期課程]観光政策論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究7

影山 摩子弥
KAGEYAMA Makoya

【研究分野】
地域CSR論、経済システム論

CSR、NPO・ボランタリー組織の役割を中心とした
地域経済システム、福祉システムの制度設計、
福祉改革の各国別の比較研究などを行う。

【担当科目】
[博士前期課程]NPO論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻究2、研究演習

海外地域論特講

乙坂 智子
OTOSAKA Tomoko

【研究分野】
中国前近代政治史

おもに13世紀から17世紀にかけての中国と
チベットとの関係を研究。当時の中国域において
チベット仏教が政治的に重視された理由などを考察。

【担当科目】
[博士前期課程]文化交流史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究3、研究演習

小野寺 淳
ONODERA Jun

【研究分野】
都市地理学、経済地理学、中国研究

地理学的なアプローチによって、現代アジアの
ダイナミズムを考察する。理論的な検討を深めるとともに、
フィールドワークによる資料収集や現地調査も行い、
実証的な研究へと昇華することを重視する。

【担当科目】
[博士前期課程]アジア地域論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究4、研究演習

柿崎 一郎
KAKIZAKI Ichiro

【研究分野】
タイ地域研究、インドシナ交通論

交通という視点からタイを中心とする
東南アジア大陸部の地域像の変容を解明する
研究を行う。
地域研究の手法で対象地域を多角的に
研究することを重視する。

【担当科目】
[博士前期課程]アジア社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究4、研究演習

山﨑 和美
YAMAZAKI Kazumi

【研究分野】
イラン近現代史(女性史、教育史)
イスラーム地域(中東・北アフリカ・カフカス・
中央アジア・南西アジアなど)研究

イランなどイスラーム世界の教育・女性・家族・
子どもをめぐる諸問題について考察する。
近現代イスラーム世界に関心を持つ学生が優れた
論文を執筆できるよう指導する。

【担当科目】
[博士前期課程]イスラーム地域論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究7

山根 徹也
YAMANE Tetsuya

【研究分野】
西洋史

ヨーロッパ、特にドイツ近現代史を専攻。
近代市民社会の形成過程において、社会構造と
統治形態が変化する中、支配層と民衆がどのような
動きをしていたかなどを調査・分析し研究を行う。

【担当科目】
[博士前期課程]欧米社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究5、研究演習

国際関係論特講

上村 雄彦
UEMURA Takehiko

【研究分野】
グローバル政治論、グローバル公共政策論、
グローバル・ガヴァナンス論

地球規模課題を解決し、持続可能なグローバル
福祉社会を創造するために、グローバル・タックスなど
必要な政策とガヴァナンス、実施主体に関する研究を
行っている。(英語での開講可能)

【担当科目】
[博士前期課程]グローバル政治論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究1、研究演習

吉田 栄一
YOSHIDA Eiichi

【研究分野】
開発地理学、アフリカ研究、都市研究、
開発援助研究

途上国の地域開発(都市・農村)とその担い手
(アクター)に関する研究。都市空間における
社会的マイノリティに関する研究。

【担当科目】
[博士前期課程]途上国開発論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究2、研究演習

瀬田 真
SETA Makoto

【研究分野】
国際法

国家の視点から形成されてきた国際海洋法を中心に、
国際法において、国家以外の視点が現在どのように
反映されているかなどを研究。指導においては、各々
が選択したテーマに合せて行っている。

【担当科目】
[博士前期課程]国際法、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究7、研究演習

人間科学論特講

有馬 斉
ARIMA Hitoshi

【研究分野】
倫理学

終末期医療の倫理問題(安楽死、尊厳死の是非)な
どを中心に、生命倫理、応用倫理学の研究をしてい
ます。講義や演習では、主に重要文献の輪読とディ
スカッションを行います。

【担当科目】
[博士前期課程]現代倫理学、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究6、研究演習

山田 剛史
YAMADA Tsuyoshi

【研究分野】
教育心理学，心理統計学，教育評価・測定

一事例実験データへの統計的方法の適用，一事例
実験のメタ分析の理論と応用，項目反応理論の教育
研究への応用，文系学生のための心理統計教育，
反転授業などアクティブラーニングの評価

【担当科目】
[博士前期課程]教育心理学、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究3、研究演習

平井 美佳
HIRAI Mika

【研究分野】
臨床心理学、発達心理学

個としての自己の独立性と重要な他者との
関係性に関わる心理学的研究を行う。
生涯発達と適応という視点を重視する。

【担当科目】
[博士前期課程]臨床心理学、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究2、研究演習

三上 真司
MIKAMI Shinji

【研究分野】
現象学的人間論、宗教哲学

新約聖書の研究、宗教および都市国家の起源の
歴史的研究、ハンナ・アレント研究を行う。また、
真理論、情動論を研究。学生には極力原書での
読解ができるように指導を進めている。

【担当科目】
[博士前期課程]現代哲学、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究1、研究演習

教員紹介

言語文化論特講

佐藤 響子
SATOH Kyoko

【研究分野】
社会言語学

コミュニケーション活動の諸相を談話分析、言語とジェンダーの視点から考察する。
理論とデータを往復しながら言語使用の背後にある規範、社会のありようなどを考える。

【担当科目】
[博士前期課程]コミュニケーション論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究5、研究演習

庄司 達也
SHOJI Tatsuya

【研究分野】
日本近代文学

芥川龍之介をはじめとする大正期文学について、また、出版メディアと作家、読者、文学の関係性について研究。素朴な疑問や発想を侮らず、発見や気づきを大切にする研究態度を重視する。

【担当科目】
[博士前期課程]日本文化論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究1、研究演習

土屋 慶子
TSUCHIYA Keiko

【研究分野】
応用言語学(マルチモーダル分析)

教育・医療・ビジネス等の場において、
ことば(多言語)や視線、ジェスチャなど
マルチモーダルな資源を用いて、人々がいかに
自己を表出し、他者との共同行為を行っているのか、
応用言語学の視点から探求する。

【担当科目】
[博士前期課程]応用言語論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究7

中谷 崇
NAKATANI Takashi

【研究分野】
現代アメリカ文学

アメリカ文学、特にWilliam FaulknerおよびJohn Updikeを中心とした現代
(第一次世界大戦以降)の小説、批評理論、
編集文献学。
制度としての[文学]を問い直すところにこそ
文学はあると考えている。

【担当科目】
[博士前期課程]アメリカ文化論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究8

速水 淑子
HAYAMI Yoshiko

【研究分野】
政治思想史、ドイツ文学

文学作品を手掛かりに、政治と物語の関係、
市民社会と人文主義の関係について考察する。
近年は、市民社会形成期におけるナショナリズムと
ジェンダー秩序の相互関係に特に注力している。

【担当科目】
[博士前期課程]ヨーロッパ文化論、演習

松本 郁代
MATSUMOTO Ikuyo

【研究分野】
日本文化史

日本における文化・思想史の研究を行う。
特に中世の歴史史料や絵画、文学や聖教資料などの
分析を通じてどのような時代的特質が
見出されるのか、多角的な視点から考察する。

【担当科目】
[博士前期課程]日本文化史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究8、研究演習

社会文化論特講

滝田 祥子
TAKITA Sachiko

【研究分野】
社会学

国境を超えた人の移動を社会学的に分析し、
多文化共生の可能性を探る。エスニック・マイノリティーの記憶の構造への関心から、個人が協働して社会を築いていく共生のあり方を模索する。

【担当科目】
[博士前期課程]多文化共生論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究3、研究演習

坪谷 美欧子
TSUBOYA Mioko

【研究分野】
社会学

国際移民の社会学の中でも世界に広がる中国人の
移動現象を中心に、移民集団のナショナル／エスニック・
アイデンティティについての研究を行う。

【担当科目】
[博士前期課程]エスニシティ文化論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究5、研究演習

板垣 明美
ITAGAKI Akemi

【研究分野】
文化人類学、癒しの文化、身体論

マレーシア、ベトナム、日本をフィールドに各地の文化を
含む生態系とその持続性を支える仕組みを時間構造、
社会構造、癒し、身体技法、神話などから総合的に検討。
ボールルーム・ダンスの歩行と日本人の歩行について3
次元動作解析を用いた比較研究も進めている。

【担当科目】
[博士前期課程]文化人類学、演習

本宮 一男
MOTOMIYA Kazuo

【研究分野】
日本近現代史

近代日本の通商問題・通商政策など、主に
社会経済史の方面から日本近現代史を研究してきた。
近年は特に、横浜および湘南の地域史に関心を
持っており、その地域特有の経済・社会・文化状況を
意識しながら研究をおこなっている。

【担当科目】
[博士前期課程]日本社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究2

在学生からのメッセージ

際限なく広がるネットワークが、研究の糧となる

柳葉　大器　博士前期 2年　都留文科大学 卒

大学では「教育（初等）」が専門でしたが、「まちづくり」との分野横断的な研究がしたいと考え、YCUの門を叩きました。
私にとって新しい分野への挑戦ですが、先生方からの丁寧かつ熱心な指導を受け、研究に励んでいます。先生方との距離が良い意味で近いため、研究等の相談をしやすいことが特長です。また、院生間でも世代や国を問わない交流を盛んに行い、日々切磋琢磨しています。さらに、院生同士で協力して自習室等の研究環境を整備することで、より良い研究活動の推進を図っています。
本研究科では多様な研究やプロジェクトに携わる機会が多く存在します。そこで出会う方々との交流を通じて新たな視点を身に付けるだけでなく、人生の財産となり得る豊かな人脈を築くことができるのも大きな魅力です。

研究テーマ:幼保小接続期に推進されるまちづくりに関する研究

博士前期1年　前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1			演習Ⅰ(オンライン)			総合研究科目2（オンライン）
2				まちづくり論特講3（オンライン）		
3						総合研究科目1（オンライン）
4						
5						
6		まちづくり論特講5（オンライン）	まちづくり論特講4（オンライン）			
7						

博士前期1年　後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1			演習Ⅱ(オンライン)			
2						
3						
4						
5		まちづくり論特講6（オンライン）				
6	まちづくり論特講1（対面）		人間科学論特講3（オンライン）		地域社会論特講3（オンライン）	
7						

【オンライン授業の様子について】　基本的に自宅での受講でしたが、集中力を切らさずに取り組むことができました。チャット機能を使用し、授業中でも気軽に質問できること、レコーディング機能を使用し、授業終了後に復習ができることが良い点だと思います。

都市社会文化研究科で世界を知る

孫　博宇　博士前期2年　五邑大学（中国）卒

ボランティア教師の経験を通してNPO組織に興味を持つようになり、漢字文化圏に所属する先進国である日本から有意義な学びがあると思い、現在はNPOの企業との協働戦略について研究しています。YCUのある横浜では数多くのNPO組織が活動しているため、研究活動を行う場として最適な環境となっています。また、授業は少人数で行われる事から、学生と教員との交流の機会が多く、話し合いをベースに授業が進んでいきます。多様な背景を持つ人どうしで活発な討論ができ、異なった考え方がぶつかり合う事で、物事に対して斬新な見解が学べます。国籍を問わず、興味や研究したい事があれば、本専攻は良い選択肢になると思います。

研究テーマ:NPOの企業との協働戦略

博士前期1年　前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2			まちづくり論特講3（オンライン）			総合研究科目1（オンライン）
3		社会経済論特講1（オンライン）				
4		大学院特別講義（オンライン）				
5		演習Ⅰ(オンライン)				
6						
7						

博士前期1年　後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						総合研究科目3（オンライン）
4					社会文化論特講1（オンライン）	
5		演習Ⅱ(オンライン)	社会文化論特講2（オンライン）			
6			国際関係論特講1（オンライン）			
7						

【オンライン授業の様子について】　最初は結構大変でしたが、段々慣れてきました。みなさんと対面で会うことができなくて、凄く残念ですが、オンラインでも意見や考え方の交換が十分にできました。先生方も自宅から授業を実施しており、カジュアルなクラスが多いです。

「もっと学びたい、深めたい。」どんどん広がる研究イメージ

大塚　友子　博士前期 2年　早稲田大学 卒

育児から職業に再び生活軸を移動させると、社会は数年の間に大きく変化していました。その変化を学び取るべく、興味のおもむくまま資格取得などを通して自分なりに勉強してきましたが、10年ほど前からそれらを学術的にまとめてみたいと大学院進学を思い描くようになりました。
思い切って飛び込んだ30年ぶりの社会学の世界。私のつたない思考や言葉も、社会人として過ごしてきた日々と経験があるからこそと先生方は尊重してくださり、私もまた幅広い年代の仲間たちと話すたびに、はっとする気づきをもらえるのが楽しくて仕方ありません。ここにいると、もっと学びたい、深めたいという気持ちが自然にわいてきますが、それは私だけではないようです。

研究テーマ:均等法第一世代女性にとって「働くこと」の意味～コロナ禍の経験は変化をもたらしたのか?～

博士前期1年　前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						総合研究科目2（オンライン）
3		社会経済論特講1（オンライン）				総合研究科目1（オンライン）
4			人間科学論特講2（オンライン）			
5			地域社会論特講4（オンライン）			
6					言語文化論特講1（オンライン）	
7			演習Ⅰ(オンライン)			

博士前期1年　後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						総合研究科目3（オンライン）
3						
4						
5		まちづくり論特講6（オンライン）	社会文化論特講2（オンライン）			
6			人間科学論特講3（オンライン）			
7			演習Ⅱ(一部対面)			

【オンライン授業の様子について】　キャンパスに行けず仲間に会えないこと、フィールドワークの制限は残念でしたが、社会人としては通学時間カットを最大限利用できたと感じています。少人数授業ですので、情報共有や資料の展開などはオンラインでも効果的に行われていました。

自由な雰囲気と真実を求め、研究するにはとてもよい環境

李　盈子　博士後期2年　都市社会文化研究科 博士前期課程 修了

都市社会文化研究科にはそれぞれの専門領域で活躍している方々が集まっており、教育・研究の資源が豊かで、勉強や研究するにはとてもよい環境です。先生方は世界の現実を見透かし、わかりやすい言葉で知識を解き明かしています。多様な国籍、様々な経歴、アイデンティティーを持つ仲間と真剣に討論できるのはとても面白いです。その結果、世界の諸問題を幅広く、深く考えられ、自分なりの研究道を探すことができます。
上村ゼミの一員として、国際社会に対する理解と社会科学研究の方法を学んでいます。博士前期課程時は、社会運動の関心から、性的少数派のインターネット公共圏における動きを研究しました。現在は、今日の新型コロナウイルスによる世界的緊急事態に対して、持続可能な地球社会を構築するために、新たな国際秩序を検討する研究を進めています。

研究テーマ:国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態、世界政府とコスモポリタニズムー新型コロナウイルスの世界的影響を事例としてー

博士後期1年　前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2			研究演習Ⅰ（オンライン）			
3						
4						
5			地域社会文化論攻究6（オンライン）			
6						
7						

博士後期1年　後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2			研究演習Ⅱ(対面)			
3			国際社会論攻究1（対面）			
4						
5		多分野交流演習（オンライン）				
6						
7						

【オンライン授業の様子について】　zoomは思ったより使いやすいです。レコーディングができて、何回でも繰り返し見ることができます。オンライン授業でも、討論がいつも盛り上がっています。急な用事があっても、どこでも授業に参加できますので、授業に遅れることはほどんどありません。

入試情報

学部・大学院構成

学部	大学院
国際教養学部	都市社会文化研究科 都市社会文化専攻　修士（学術）/博士（学術）
国際商学部	国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻
理学部	生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻　生命環境システム科学専攻 生命医科学研究科 生命医科学専攻
データサイエンス学部	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻　ヘルスデータサイエンス専攻
医学部　医学科　看護学科	医学研究科 医科学専攻　看護学専攻

2022年度　都市社会文化研究科入試日程

課程	専攻	入学定員	区分	募集人員	出願期間	入試	合格発表	入学手続期間
博士前期	都市社会文化専攻	20	学内推薦	若干名	8月16日（月）～18日（水）	9月18日（土）	10月1日（金）	10月12日（火）～14日（木）
			第1期※	10	8月16日（月）～18日（水）	9月18日（土）	10月1日（金）	10月12日（火）～14日（木）
			第2期※	10	1月6日（木）～11日（火）	2月12日（土）	2月22日（火）	2月28日（月）～3月2日（水）
博士後期		3	※	3	1月6日（木）～11日（火）	1月20日（木） ※書類審査	1月28日（金）	-
						2月12日（土） ※口述試験	2月22日（火）	2月28日（月）～3月2日（水）

※出願資格区分は、一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜があります。出願資格に関する詳細は、学生募集要項で確認してください。

選抜方法

課　程	試験科目
博士前期課程（第1期・第2期共通）	専門科目及び口述試験
博士後期課程	【第1次選抜】書類審査 【第2次選抜】口述試験

都市社会文化研究科入試結果

〈博士前期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2021年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	8	8	8	8
			第1期※	10	14	10	5	4
			第2期※	10	17	16	11	9
			合計	20	39	34	24	21
2020年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	0	-	-	-
			第1期※	10	22	20	10	10
			第2期※	10	8	8	3	2
			合計	20	30	28	13	12
2019年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	0	-	-	-
			第1期※	10	10	10	7	6
			第2期※	10	9	9	5	4
			合計	20	19	19	12	10

※全ての出願資格区分（一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜）を含みます。

〈博士後期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2021年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	6	6	5	5
2020年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	5	5	3	3
2019年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	3	3	1	1

※全ての出願資格区分（一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜）を含みます。

学費

（単位：円）

項目		博士前期課程 市内*2	博士前期課程 市外	博士後期課程 市内*2	博士後期課程 市外
学費	入学金*1	141,000	282,000	141,000	282,000
	授業料*1	535,800		535,800	
諸会費*3	学術研究会費	2,000		2,000	
	後援会会費	30,000		30,000	
納付金合計		708,800	849,800	708,800	849,800
入学時納付金合計		173,000	314,000	173,000	314,000

*1　入学金・授業料は2021年度の金額です。金額について改定する場合があります。金額が改定された場合は、改定後の金額が適用されます。なお、授業料は分納（5月・10月）です。
*2　「市内出身者」とは、入学の日の1年以上前（2021年4月1日以前）から引き続き横浜市内に本人または扶養義務者が住所を有する者をいいます。
*3　本学の学術・研究・学生生活の充実や福利厚生の向上を目的とした活動を行う各団体の会費となります。

入試説明会を実施します！

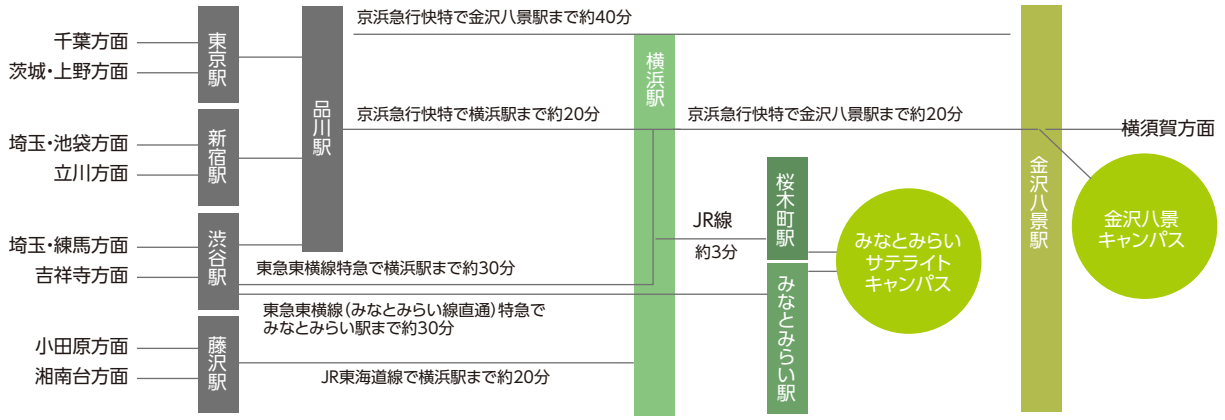
都市社会文化研究科の概要や入試概要についての説明会を年2回実施しております。
詳細は都市社会文化研究科のWEBサイトでご確認ください。

	実施予定日	内容（予定）
第1回	2021年5月20日（木）	・都市社会文化研究科の概要 ・2022年度入試概要 ・教員紹介 ・研究科の紹介（院生より） ・分野別説明 ・入試相談
第2回	2021年11月13日（土）	

社会人にも学びやすい環境

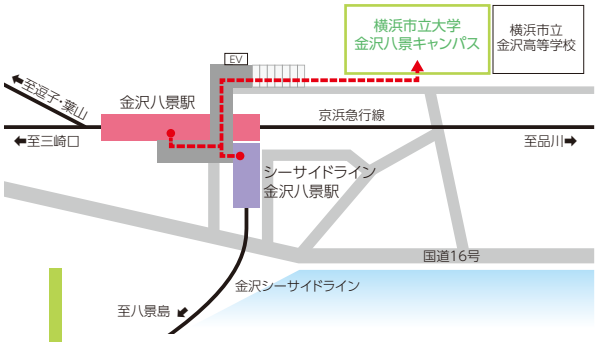
半数近い授業科目を平日夜間及び土曜日に開講し、また修士論文によらない修了も可能とするなど社会人が学びやすい条件を整えています。
また、資格を満たしていれば、修業年数を超えて一定期間延長して計画的に教育課程を履修できる長期履修制度もあり、積極的に社会人を受け入れています。

首都圏各地から金沢八景キャンパスおよびみなとみらいサテライトキャンパスまでの交通路線案内



記載の路線は代表的なもので、これ以外にもアクセス方法がございます。

都市社会文化研究科で主に利用するキャンパス



金沢八景キャンパス

〒236-0027　横浜市金沢区瀬戸22-2

京浜急行「金沢八景駅」から徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」から徒歩5分

みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107　横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階

JR・市営地下鉄「桜木町駅」から動く歩道で徒歩5分
みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩3分

YCUその他のキャンパス

鶴見キャンパス

〒230-0045　横浜市鶴見区末広町1-7-29
（生命医科学研究科など）

舞岡キャンパス（木原生物学研究所）

〒244-0813　横浜市戸塚区舞岡町641-12
（生命ナノシステム科学研究科など）

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004　横浜市金沢区福浦3-9
（医学研究科など）

YCU
横浜市立大学

横浜市立大学大学院
都市社会文化研究科

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055　FAX:045-787-2057
https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/index.html

@yokoichi　YCU_koho　yokohama_city_university　YokohamaCityUniv

［編集・発行］
横浜市立大学アドミッションズセンター